

# KSK 川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター  
所長 中込 義昌  
編集責任者 広報・啓発委員会  
委員長 伊藤 實  
〒210-0834 川崎区大島 1-8-6  
川崎市南部身体障害者福祉会館内  
電話 044-246-6941  
FAX 044-246-6943  
E mail zksk@nifty.com  
<http://kawashinkyo.org>

## 災害から身を守るため 今考えること

我が国は、災害大国と呼ばれるほど毎年のように災害が起っています。また地震のみならず台風、豪雨、火山の噴火など様々な災害が起こる危険性が常にあります。去年は台風 19 号により川崎市内にも甚大な被害がもたらされました。

日頃から災害に備えておくことは重要ですが、昨今のコロナ禍の状況も考慮しつつ、「どう行動するのか、何を備えるべきなのか」を、今一度見直しましょう。

### 災害発生時の避難

東北地方などに甚大な被害を及ぼした東日本大震災からまもなく 10 年が経とうとしています。犠牲になった人のうち、障害のある人の死亡率は住民全体のおよそ 2 倍だったと指摘されており、避難の難しさが浮き彫りになりました。市町村が発する避難勧告等では「高齢者等、避難に時間を要する方は避難準備情報の段階で避難」となっており、早めの避難の重要性が呼びかけられています。災害時に何が問題になるかは障害種別やそれぞれの状態によって様々ですが、一人ひとりが自分のケースを考え、自分の状況に応じた備えを準備することが大切です。災害が発生する前に考えて欲しいポイントをまとめました。

#### 安全な場所に逃げるため

##### 1. 避難場所を決める

ハザードマップなどで自分の地域の災害リスクを知る。その上でどこに避難するか考え、家族などとも共有する。

##### 2. 避難場所への移動ルートの下見

最短ルートでも道が狭く落下物等の危険

がある場合もあるので、遠回りでも広く安全な道で行ける避難所も確認する。また予め避難ルートを下見しておく。

##### 3. 支援者を探す

自力での避難が難しい場合、地域の民生委員への相談や市の要援護者避難支援制度への登録などを行う。また、防災訓練に参加して地域の方に自分の存在を知ってもらったり、近所の方と普段から顔馴染みになることは、避難時の協力者を増やすことに繋がります。

#### 避難生活を考える

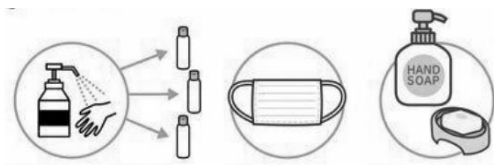
##### 1. 避難所を知る

バリアフリーに問題はないか、情報取得に問題はないか等は重要なポイントです。また、自宅避難も視野に入れ飲料水や保存できる食料なども一定量確保しましょう。

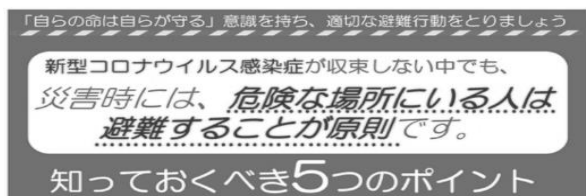
##### 2. 自分にとって必要なものは

薬や福祉機器なども必要ですが、自分ならではの「必要なもの」も考えておくことが大切です。また、知的障害や発達障害の場合には、被災時に状況が理解できず不安になることがあるため、本人が落ち着く手助けになるものも準備しておきましょう。

## 新型コロナウイルスと防災



新型コロナウイルスの収束が見通せない中、これまでのように「避難所」に多くの人が密集すると新型コロナウイルスの感染が広がるリスクがあります。川崎市でも新型コロナウイルス感染防止策などを盛り込んだ川崎市総合防災訓練が11月8日に宮内中学校で行われました。避難する私たちも、マスク、体温計、アルコール消毒液、せっけん、ゴム手袋などを避難グッズに加えましょう。



内閣府・消防庁では「新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則」として、5つのポイントをまとめています。

- ①避難とは[難]を[避]けること。安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
- ②避難先は、小中学校・公民館ではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- ③マスク・消毒液・体温計が不足するかもしれません。できるだけ自ら携帯して下さい。
- ④市町村が指定する避難場所、避難所が変更・増設されている可能性があります。（可能であれば）実際に避難する前に市町村ホームページ等で確認して下さい。
- ⑤豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分確認して下さい。

【内閣府（防災担当）・消防庁】

## 防災情報サイトのご紹介

災害時要援護者（高齢者、障害者、乳幼児等）が、災害時に身を守るためにどのように行動したらよいか、防災・減災のためのヒント、障害等の特性ごとに留意していただきたいポイントの確認などに役立つ2つのサイトを紹介します。

### ・川崎市ホームページ（防災）



メールニュースかわさき（防災気象情報）の登録案内、災害時要援護者避難支援制度に関すること、災害時要援護者のための防災行動ガイド（冊子）等が掲載されています。また、家族や地域でどのような助け合い体制をとればよいかなど日頃の備えに関する情報も掲載しています。



[[https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/15-3-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html](https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/15-3-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html)]

### ・災害時障害者のためのサイト（NHK 公式）



災害時に障害者等は孤立しやすいため、「誰も取り残さされない防災」をテーマにさまざまな情報が発信されています。また大規模災害が発生した際には、被災地の安否情報・支援情報が掲載され、随時更新されます。



[<http://www6.nhk.or.jp/heart-net/special/saigai/>]

## 防災の取り組みについて ～川崎市聴覚障害者情報文化センター～

私が所属しております川崎市聴覚障害者情報文化センターと川崎市ろう者協会、川崎市中途失聴・難聴者協会、川崎市登録手話通訳者団、川崎市登録要約筆記者協会の 5 団体で、「川崎市聴覚障害者災害対策委員会」を構成しており、例年、委員会のメンバーが川崎市総合防災訓練に参加しております。災害発生時に聴覚障害者への配慮としてお願いしたいことを来場者の皆様に啓発してきました。また、昨年度はラゾーナ川崎プラザで開催された「備える、フェスタ 2020」にも出展させていただきました。



（「備える、フェスタ 2020」2020. 2. 15）

聴覚障害者は日常生活において、当センターで実施している手話通訳者等の派遣事業により、意思疎通の支援を受けることが可能ですが、発災直後には、その場に通訳者がいない状況となり、孤立してしまうことが考えられます。ただでさえ、災害の状況で不安な中、情報から取り残されてしまうこととなります。災害時に「孤立しない」「孤立させない」ためには、地域住民の理解が欠かせませんし、当事者も自ら、どのような配慮をお願いしたいのかを具体的に周囲に伝えていく事が重要だと考えております。川崎市総合防災訓練では、来場された市民の皆様と聴覚障害の当事者が筆談や簡単な手話などでコミュニケーションを取ってみる、ということに重点を置いています。こうすれば通じる、と実感してもら

ことが何より大切だと考えています。

防災訓練の会場では、来場者と聴覚障害者が通じ合い、双方がにっこりとほほ笑む場面を何度も目撃してきました。この取り組みを広げ、避難所などでの不安感が少しでも和らげばと考えてきました。

しかしながら、皆さんご承知の通り、新型コロナウイルスの流行により、人と人との距離を保つことが求められるようになりました。マスクをつけていると、口の形や表情が読み取れず、聴覚障害者にとって大変厳しい生活様式となっています。今年は大きな台風はなく、ほっとしています。新型コロナウイルスの流行期に災害が起こってしまったら、避難所でも極力「密」を避けなければなりませんし、誰もがピリピリとした気持ちになっている中で、配慮をお願いすることは、なかなか出来ないかもしれません。また、密を避けるために分散避難も呼びかけられていますので、そもそも指定避難所には行かないと言う人も出てくると思います。読者の方にはお願いです。もし、災害時に聴覚障害者に出会ったら、筆談や身振りなどの見てわかる方法で話しかけ、必要な情報を届けてください。放送やサイレンの音、防災無線も聞こえていません。どうか、サポートをよろしく願いいたします。

委員会では、動画による「ハザードマップの見方」を目下制作中です。近いうちに動画をアップする予定です。ぜひご覧ください。また、何かお困りのことがありましたら、当センターでご相談をお受けしております。メールでの連絡もできるようになりましたので、どうぞご利用ください。

### 相談メールアドレス

[kawasaki-joubun-soudan@kanagawa-wad.jp](mailto:kawasaki-joubun-soudan@kanagawa-wad.jp)

（川崎市聴覚障害者情報文化センター

おおにし まき  
大西 真木）



## 令和 2 年度 障害者週間における川崎市長表彰

令和 2 年 11 月 17 日（火）川崎市役所第三庁舎 講堂にて「令和 2 年度 障害者週間における川崎市長表彰」（主催 川崎市、川崎市障害者社会参加推進センター）が開催されました。今年度は「手をつなぐフェスティバル（障害者週間記念のつどい）」が新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、受彰者と関係者のみの出席で市長表彰式を開催いたしました。



(表彰の様子)

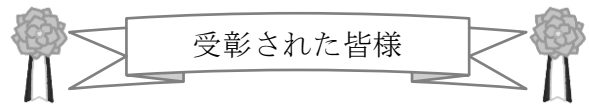
秋晴れの中、表彰式では長年にわたり障害者児の更生援護や育成功労等により障害者福祉の発展向上に尽くされた方や、【出会い、ふれあい、心の輪 ～障害のある人とない人との心のふれあい体験を広げよう～】をテーマに市民より募集した「心の輪を広げる体験作文」の最優秀賞者等の受彰された方一人ひとりに福田市長より表彰状が授与されました。

障害者週間とは毎年 12 月 3 日～12 月 9 日までの一週間を「障害者週間」と定め、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害のある人があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として障害者基本法により定められております。昨年は、川崎駅周辺で街頭キャンペーン等の活動がされており、全国各地においても様々な取り組みが実施されています。

受彰された皆様、誠におめでとうございます



(福田市長と受彰された皆様)



身体障害者更生援護功労者	
つなしま 富美子 様	更生援護
おぐろ 正子 様	
ながい 理枝 様	音訳奉仕活動
きたむら 久子 様	
こいけ 玲子 様	点訳奉仕活動
身体障害者自立更生者	
しんかわ 厚美 様	自立更生
心身障害児（者）福祉功労者（育成功労者）	
みうら ルイ子 様	団体活動
おおた 和子 様	
いげはた 恵子 様	
心身障害児（者）歯科治療事業	
あべ 哲也 様	歯科医師
身体障害者特別表彰者	
たかとお 眞佐夫 様	特別表彰
心の輪を広げる体験作文	
あらかき 唯穂 様	最優秀賞 (高校生部門)
とうかい 菜月 様	優秀賞 (一般部門)

## あやめ会における川崎市への要望活動

特定非営利活動法人川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会（以下、「あやめ会」）は、毎年、川崎市の翌年度予算編成期に合わせて、市に要望書を提出しています。

例年ですと、各区の家族会からの要望をまとめて、市議会各党派との意見交換を経て、市に説明して要望書を提出するのですが、今年度はコロナ禍のために各党派には要望書を送付し、市にも説明なしで提出しました。

令和 3 年度に向けた要望書では、新型コロナウイルス感染拡大の第 2 波・第 3 波への対応を、来年度を待たずに要望する喫緊の重点事項として位置付けました。次に、主な要望事項の概要を記します。

1. 第 2 波等にも備えるコロナ禍での精神医療・福祉の取り組みについて
  - ・神奈川モデル・ハイブリッド版における精神医療体制の拡充整備及び精神疾患
  - ・障がい者を有する当事者（以下、「当事者」）とその家族への PCR 検査の優先適用
  - ・当事者やその家族が新型コロナウイルスに感染した場合の支援の強化
  - ・精神福祉関係施設の活動低下への救済措置や当事者の解雇・雇止めの実態把握と救済
2. 精神的不調を抱える人を医療に繋げるための在宅相談・支援の充実及び相談者に寄り添う相談対応への指導の徹底
3. 当事者や当事者を支える家族が安心して生活を続けるための当事者・家族への丸ごと支援の充実
4. 精神医療及び福祉サービスのワンストップ化の推進、特に「8050 問題※」対応
5. 当事者や家族が安心安全に滞在できるショートステイ施設の拡充

6. 当事者を医療に繋げるための多様な精神医療体制の構築や精神科救急医療体制の充実
7. 当事者の就労意欲の喚起、就労支援、職場定着支援及びピアサポーターの養成、活動領域の拡大等による社会参加への推進
8. 精神保健福祉の啓蒙・啓発活動及びこころの健康教育の更なる推進
9. 社会生活の確保・維持のための施策の推進
  - ・グループホームの増設や公営住宅・民間住宅を利用する場合の支援の充実
  - ・他障害との格差是正を含む医療費助成の拡大、JR、私鉄及び有料道路等の料金割引他の経済的負担軽減策の推進及び諸手続きの簡易化・オンライン化の推進
10. 長期入院患者の地域移行・地域定着支援の促進

※80 代の親が 50 代のひきこもりの子を養う世帯の困窮と孤立が社会問題とされており、「8050 問題」と呼ばれています

例年、翌年 3 月に市から丁寧な回答書が交付され、市当局から内容の説明があります。

なお、「令和 3 年度に向けた川崎市への要望書」をはじめ、ここ数年の要望書及び市の回答書をあやめ会ホームページで、ご覧いただけます。 [http://ayamekai.org/]

(NPO 川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会  
田草川 武)



## コロナ時世で思うこと

今年に入って、さあ、新年度に向けての準備をするために色々行動を起こそうと思っていた矢先、新型コロナウイルスのニュースが入ってきた。最初は、こんなに日本中に、いや世界中で広まっていくとは思っておらず普通に物事は進むと思っていた。日に日に、感染が拡大していき長く治療を受けても亡くなってしまふ人が多くなり事態は悪化していくばかりになってしまった。ニュースを見ると怖くなり、外出するだけで感染するのではないかと思ってしまうほどだった。

娘の通う学校では、色々な行事が中止や縮小された。3月に入ってすぐに休校になり、数日の登校日があったものの結局そのまま終了となってしまいました。学校が急にお休みになり子どもたちの動揺はかなりのものだったと思う。卒業式は縮小され、今まで準備してきたことができなくなり卒業生も、そして送るために練習してきた在校生もかなり悲しい思いをしたことと思う。同席できたのも卒業生の保護者、学校側は担任の先生と校長などの管理職の先生のみで、他の先生や在校生の保護者は卒業生を送ることができなかった。それでも、式ができたことを喜ばねばならないのでしょう。

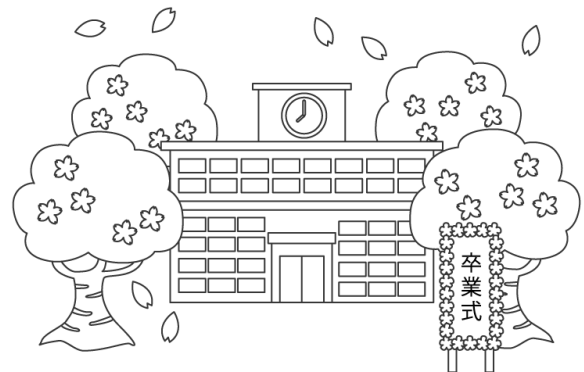
その後、緊急事態宣言が出され入学式も縮小して行われた。登校できるようになったのは6月に入ってからだった。それでも、まだ登校日に行くのみで、一斉に登校が可能になったのは7月になってから。その間の家だけの生活はとても辛いものだった。せつかく、家にいるのだから普段できないことをやれる、やろうと思っても、なかなか手につかず、テレビを見れば新型コロナのことばかり。怖いニュースも多く、気持ちも落ち込んでいくようだった。これまでも感染症で多くの人間が命を落としつつも克服しようと闘ってきた歴史はあるが、自分の生きてる時代にこんなこ

とが起こるなんて、想像もしていなかった。

突然、世の中の動きが止まり普通の買い物も難しくなり、必要な物が普通に手に入らなくなった。障害者のいる我が家では特にアルコール消毒液や手を洗う石鹸等が店頭から消えてしまい本当に困った。急に学校が休みになり、いつも子供と一緒にため自由に買い物に出ることができず、出掛けられても買い物に時間がかかるため普段より遅くなってしまふ。また、必要な人に必要な物が届かないのはやはり困る。その後、政府からアルコール消毒液やアルコール綿が配布されたが、その時にはもう普通に手に入るようになっており時期が遅すぎた。もっと早く必要な人に届けることはできなかったのか。マスクと同じく残念なことだったと思う。

いろんなことが制限されてしまった今年の生活ですが、この先暫くは「with コロナ」で一人ひとりが気を付けていきながら生活していくことが続くと思います。これから冬に向かうとインフルエンザ等も含めた感染症の心配も増えます。特に障害者のいる家庭、また養護学校や施設などは気を緩めず対策をしていかななくてはならないと思う。

(川崎市肢体不自由児者父母の会連合会  
藤井 礼子)



## 川崎市内の地域活動支援センター 「手作り工房ウィンドウ」

一般就労は困難だけど、自分達で『精一杯何かをやってみたい!』を原点に、平成 8 年（1996 年）4 月 1 日に立ち上げた「手作り工房ウィンドウ」も早 24 年目を迎えました。現在は障害を持った利用者さんが 7 名、職員 2 名、非常勤 1 名で活動しています。

### 【活動内容】

自主製品の製作販売…エプロン・袋・ブックカバー等に型染めをした製品。箱ティッシュカバー・ミニボストン・ペンケースなどのキルティング製品。シーツ・布団カバーを帯状に縫い、組み合わせるパッチワーク風マットなど。

製品完成までの行程は数多く、ミシン・アイロン掛け、リボン付け、包装等、それぞれの障害に合わせた作業を担当し、ひとつひとつ心を込めて製作しています。



（製作販売の一例：お弁当袋、巾着袋 etc）

製品は店頭、地域でのイベント、委託販売先でもご購入いただけます。また、下請け作業、パソコンでの売上げ表管理・広報紙発行、HP 管理等、地域イベントへの参加・出店、車椅子体験指導や障害を知って貰うための講演、職場体験実習の受け入れ、町内会イベント交流会など、地域に根付いた活動も行っています。主な行事は、日帰り旅行（小江戸・川越、三島スカイウォーク等）、投球台を使用して楽しむボウリング大会等を行っています。

### 【ところが…】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが全て中止となり、出店販売の

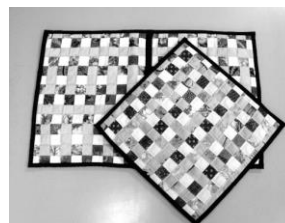
機会がありません。例年ならば大忙しですが、今年は在庫ばかりが増え行事も行えない、これまで経験したことのない一年を送っています。それでも、ホームページや広報紙「ハローウィンドウ」にマスク販売について掲載すると、生地の寄付や神奈川新聞に掲載いただきました。新聞掲載によりご寄付、ご注文や委託販売先の紹介に繋がりに感謝しております。

### 【終息を願って】

現在も新型コロナウイルスの感染拡大に怯えながら、対策を講じて運営し、また販売会で皆さんとお会いできる日を楽しみに、日々製品作りに励んでいる毎日です。一日も早く、安心して活動ができる日が来ることを願っています。

### 購入いただける場所

- ・ウィンドウ  
店頭、TEL、FAX にてご購入、ご注文可能
- ・まんま m i y u （川崎市産業振興会館 2 階）
- ・ともしびグッズコーナー（かながわ県民センター 1 階）



（パッチワーク風マット）



（手作りマスク）

### ご提供のお願い

ご使用済みの木綿シーツ・布団カバー・タオルケット、バスタオルのご提供をお願いいたします。再利用して製品へと生まれ変わります。（手作り工房ウィンドウ きたじま さとみ 北島 総美）

### 【お問合せ先】

地域活動支援センター 手作り工房ウィンドウ  
〒210-0082  
川崎区池上新町 2-8-5 コーポキド 1 階  
TEL・FAX 044-277-3113  
ホームページ

<http://park12.wakwak.com/~tezukuri-window/>



### 第 63 回神奈川県ろう者大会



令和 2 年 11 月 15 日(日)横浜市戸塚公会堂にて神奈川県ろうあ者大会が開催されました。参加定員を半分に設定し、ソーシャルディスタンスを保つなどの新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら開催しました。216 人の方にご来場いただき、日本ろうあ連盟 70 周年記念の映画「咲む(えむ)」を上映後、早瀬監督と出演者の次長課長 河本準一さんのトークショーが行われました。無事に大会を終える事ができ、内容も有意義なものとなりました。一日でも早くコロナが終息するよう、心から願っています。

(NPO 法人川崎市ろう者協会 あまがさゆうた 天笠裕太)

### 健康ヨガ教室開催

今年度より視障協女性部では「ヨガ」を活動に取り入れています。指導者は、視覚障害者を対象に健康ヨガの普及に取り組んでおられる佐藤友見子先生です。受講生 18 名の目的は「健康になりたい」「贅肉を取りたい」など、それぞれですが、3 月までは月に一度、皆さんの目的が少しでも達成できるよう頑張っていきます。

(NPO 法人視覚障害者福祉協会 おおすき すみこ 大漣 純子)



(北部身体障害者福祉会館にて)

### 【連載】東京パラリンピック競技紹介

#### テコンドー



～華麗に繰り出される

足技で相手から得点を奪え！～

今大会から正式競技となる 2 競技のうちの 1 つです。パラ種目に採用されたのは、主に上肢障がい選手が参加できるキョルギ(組手)です。一般のテコンドーとは異なり、認められる攻撃は蹴りのみで頭部への攻撃は禁止となっています。その蹴り技の種類によってポイントが異なり、ポイントの総得点で勝敗が決まります。腕の切断部分などにより 4 つのクラス(K41~44)があり、男女それぞれ体重別に 3 階級に分かれています。試合時間は 2 分×3 ラウンドです(ラウンド間に 1 分間の休憩)。

障害者スポーツにおいて、自身の身体能力だけで闘う唯一の打撃系の競技で、身一つで果敢に攻め込んでいくところがこの競技ならではの面白さと言えます。

日程：2021 年 9 月 2 日(木)～9 月 4 日(土)

会場：幕張メッセ B ホール

※スケジュール等は今後変更される可能性があります。

#### 編集後記

アジアからと言われる「新型コロナウイルス」という単語を耳にしたのは立春の頃だったと思うのですが、あっと言う間に今では全国に感染が広がり驚いています。ウイルスは、冬が最も元気との事ですので、充分気をつけなければと思っております。

(編集副委員長 みうら りょういち 三浦 亮一)

発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会  
〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール 3F  
横浜市車椅子の会内 (頒価 100 円)